

掘り day はちのへ

—八戸市埋蔵文化財ニュース 第9号—



狩猟文土器 写真（左）の中央に弓矢、さらに矢の先には獲物が表現された文様が付けられています。

縄文アート !?

市子林遺跡から、「弓矢」と「獲物」（動物）が表現された文様をもつ縄文土器が出土しました。このような文様をもつ土器は、狩猟をイメージさせることから、狩猟文土器と呼ばれており、縄文時代中期末～後期前半に特徴的にみられるものです。今回出土した土器には、弓矢の他にも文様が全面にみられますが、何を表現したものは残念ながらわかりません。

縄文人は、狩猟の成功など、いろいろな願いを込めて、この土器をつくったのでしょう。 （杉山 陽亮）



市子林遺跡の発掘調査

あ ら や 荒谷遺跡

南郷区荒谷遺跡は、島守盆地内の新井田川沿いに位置しています。今回の調査では、縄文時代・弥生時代・平安時代の遺構・遺物が出土し、特に弥生時代前期について大きな成果がありました。

調査により、弥生時代前期の遠賀川系おんががわの土器が数点出土しました。この土器は、西日本の弥生土器と器形・製作技術が類似しており、東北地方の他地域に比べ新井田川・馬淵川周辺の遺跡でやや多くみられます。また、同時期のえぐりいりちゆうじょうかたぼせきふ抉入柱状片刃石斧が、メノウを14点納めた土

器と共に、配石の下から出土しました。この石斧は、大陸系磨製石斧と呼ばれ、稲作技術とともに朝鮮半島から伝わり、主に西日本で製作・使用されたものです。遠賀川系土器や抉入柱状片刃石斧などは、弥生時代の西日本と八戸地方との関係を考える上で、貴重な発見といえます。

大規模な配石は、東側で墓を伴います。祭祀に関わる大規模施設として、荒谷遺跡はこの時期の人々にとって、特別な場所であった可能性があります。(南郷歴史民俗資料館 水野 一夫)



調査区全景



土坑墓から検出された人骨



遠賀川系土器（壺）



メノウや石斧の出土状況



1：メノウ（14点） 2：メノウが納められていた土器
3：土器の中に入れていた石 4：抉入柱状片刃石斧

特別展「水辺と森と縄文人」— 低湿地遺跡の考古学 —

近年、全国各地で低湿地遺跡の調査が行われ、台地の遺跡では見つからなかった、さまざまな木の道具（木器）や漆器が発見されています。縄文人の生活は、土器や石器とともに、木器によって支えられていることが改めてわかったのです。

市内の是川地区にある中居遺跡も、東北地方の縄文晩期を代表する低湿地遺跡として知られています。発掘調査によって発見された木器は、色や形をよく残しており、全国的にみても貴重なものが多いことが特徴です。今回は、保存処理が完了したこれらの木器や漆器を中心に、各地の低湿地遺跡を特集し、特別展を開催しました。

展示では、加工用具・容器・狩猟用具・装身具など、用途別に分けて並べました。準備不足で説明の足りない部分がありましたが、木製品のもつ生々しさに助けられ、縄文人の生活に迫る展示ができたと思います。

12月から1月という寒さが厳しくなる中、

24日間と短い期間でしたが、1,247名ものお客様にみていただきました。（小久保 拓也）



特別展ポスター

遺跡から出土した遺物を、水辺（中居遺跡の低湿地）と森（樹皮製容器製作復元のケヤキ）の中に表現しました。



特別展のようす 縄文時代の貴重な漆器を展示したため、会場はやや暗めにしています。

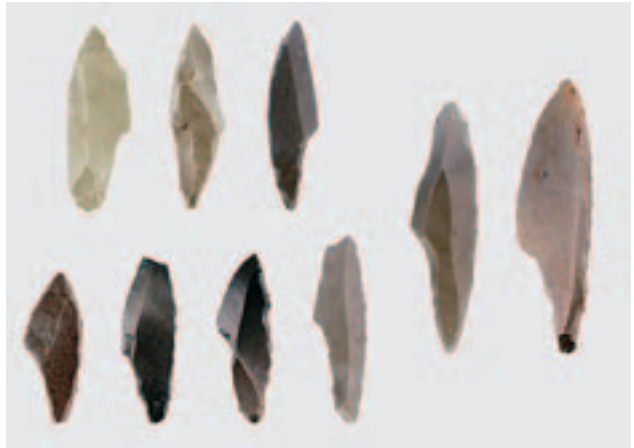
田向冷水遺跡では3地点の調査を行い、旧石器時代・縄文時代・古代の遺構や遺物が出土しました。中でも平成16年度より行っている旧石器時代の調査に関しては、多大な成果を得ることができました。

平成17年度の旧石器時代の調査では、新井田川に向かって張り出した細長い台地の平坦な部分から、川に面した斜面全体に石器が分布していることがわかりました。



調査のようす
石器は、串が立っている所から出土しました。

出土した石器は、ナイフ形石器6点を含めた石器・石片約2万6千点です。平成16年度と合わせると約3万4千点にのぼり、石器の加工に際してできたとみられる細かな剥片や原石が大半ですが、石を割るときに使った台石や敲き石等も出土しています。ナイフ形石器は、長さ4～5cm前後のものが多く、最大のもので長さ7.3cmです。全体的に小ぶりで、同じような形につくられています。（船場 昌子）



ナイフ形石器（実物の1/2）

縄文時代早期の土器

縄文時代は、草創期・早期・前期・中期・後期・晩期の6時期に大きく分けることができます。そのうち、縄文時代早期は今から約一万年から六千年前の約四千年間を指します。土器の形は円錐形で底が尖っています。地面に突き刺して、土器を安定させながら使用したと考えられます。

早期前葉の土器は棒状の木などに文様を刻ん

で、それを回転させ、浮き出した文様をつける
押し型文土器、中葉から後葉は表面が凸凹しているアカガイなどの貝殻を用いて、表面や縁辺を土器に押し当て・突き刺す・線を引くことで文様をつけた貝殻文土器、末葉は撚り紐を利用し回転させた縄目模様の土器などがあります。

（村木 淳）



押し型文土器（牛ヶ沢遺跡）



貝殻文土器（田面木平（1）遺跡）



縄目模様の土器（赤御堂遺跡）

発掘された化粧用具

遺跡からみつかるものは、普段の生活に使われる道具だけではありません。ブレスレットやネックレスといった装身具、履物や衣類、そして時に化粧用具も発見されることがあります。

縄文時代晩期の遺跡として有名な八幡遺跡^{やわた}では、中世の終わりから近世にかけてのものともみられる蓬萊鏡^{ほうらい}がみつかりました。江戸時代になると、鏡の形は柄の付いたものへと変化し、廉価品の登場により鏡は庶民層にも普及します。写真の鏡は文様が複雑なことなどから、より古く高級なものであったと思われます。

是川一王寺(1)遺跡から発見された写真下段の陶器は、「鬢水入れ」と呼ばれる結髪用具^{けっぱづ}で、墓坑のなかに副葬されていました。鬢(左右側面の髪)を整える液体(真葛^{まがせき}から採られる粘液=鬢水)を入れるためのこの小判型の容器は、18世紀ころに、瀬戸・美濃地方でつくられたものです。

日本の化粧文化史上、ひとつの頂点をむかえた江戸時代は、華やかな化粧とともにその用具

も発達しました。今回紹介した2点は、そのような時代に使われたもので、江戸文化を享受する上品で優雅な女性が八戸にもいたことを教えてください。(小保内 裕之)



蓬萊鏡(上)と鬢水入れ(下)

平成17年度 八戸市遺跡報告会を開催

12月18日(日)午後1時30分から、八戸市総合福祉会館多目的ホールにおいて、平成17年度八戸市遺跡調査報告会を開催しました。文化課が主催する遺跡調査報告会は、第4回目を迎え、今年の参加者は136名と盛況でした。

報告した遺跡は、東北地方で初めて出土した、弥生時代の抉入柱状片刃石斧^{えぐりいりちゅうじょうかたばせき}が注目される南郷区の荒谷遺跡、古代の集落を調査した市子林遺跡、複式炉を持つ縄文時代後期初頭の住居が見つかった是川一王寺(1)遺跡です。さらに、是川中居遺跡については、平成11~16年までの調査成果をまとめて報告しました。

また、展示コーナーでは、報告した遺跡に加えて、田向冷水遺跡の旧石器時代のナイフ形石器や、八幡遺跡の蓬萊鏡^{ほうらい}、市子林遺跡の縄文時代の狩猟文土器(表紙写真)などが展示され、人気を集めました。(渡 則子)



平成17年度 遺跡調査報告会ポスター

復元された縄文漆器

平成 17 年度の是川縄文の里整備事業では、是川遺跡から出土した樹皮製容器の復元製作を行いました。

これらの樹皮製容器は、平成 14 年に是川中居遺跡南側の地下約 2m にある捨て場（沢跡）から発見されました。すべてケヤキの樹皮で作られており、蓋があることがわかりました。出土した容器の破片の表面は、黒と赤の漆が丁寧に塗られており、あまり擦れていないことから、常時使用するものではなく、祭祀等に使われたものかもしれません。

復元作業は、6 月中旬から開始し、約 3 ヶ月かけて完成しました。まず、ケヤキ（樹高約 15 m ・直径約 70cm ・幹周り 220cm ）の樹皮の剥ぎ取りを行いました。木の表面に刻み目を入れ、厚さ約 1.5cm に剥ぎ取りました。その後、容器の蓋と身になる部位に切断し乾燥させ、それぞれ綴り合せて、円筒状の容器をつくり、その表面に、炭の粉を混ぜた「黒漆」と、ベンガラ（赤色顔料の一種）と精製した漆を混ぜた「赤漆」を重ねて塗りました。このようにして縄文時代の樹皮製容器が現代によみがえったのです。

復元された樹皮製容器は、市民の方々にご覧になっていただけるように、いろいろな機会に展示していきたいと思えます。（大野 亨）



樹皮の剥ぎ取り



樹皮製容器 上：直径 44cm、高さ 28cm
下：直径 60cm、高さ 40cm

（製作協力：岩手県八幡平市安代漆工技術研究センター）

縄文（考古）関係文献寄贈される

八戸市にゆかりのある江坂輝弥慶応義塾大学名誉教授から、ご自身の所有する約 1 万冊の縄文関連図書を八戸市に寄贈していただきました。同氏は、青森県や八戸の遺跡の発掘調査や調査研究に深く関わりました。

寄贈図書は、縄文時代や考古学関係の概説書・専門書・報告書・雑誌など、貴重な文献です。

今回ご寄贈していただいた図書は、現在八戸市で建設を進めている仮称是川縄文館で所蔵し、調査・研究や来館者の閲覧用等に活用する予定です。（大野 亨）



寄贈された図書の整理

癒しの空間

南部氏庭園

「南部氏庭園」は薩摩藩第8代藩主島津重豪^{しげひでのぶゆき}の5男信順が第9代八戸藩主に迎えられたことを契機として、江戸時代末期の弘化4年(1847)に造られたものです。この庭園は、薩摩藩お抱えの庭師によるものとも伝えられ、背後に流れる馬淵川を借景として、石組が川面に浮かんでいるかのように意図されています。晴れた日には遠く秀麗な八甲田の山並みを眺めることができます。また、安政5年(1858)には、信順公がこの地に別荘を建てたことが八戸藩史料に記載されています。

文化課では南部氏庭園を取得して以来、昨年度初めて、新緑の春(5/27～6/1)と紅葉の秋(10/28～10/30)に一般公開いたしました。

この期間、市内はもとより県内各地や岩手県などから、当初の予想を大幅に上回る約1万人の方が来園し、「大変素晴らしい」との声が多く寄せられました。

今後も、春と秋の年2回ずつ開園いたします

ので、多くの方々のご来園をお待ちしております。(佐藤 顕一)



昨春の開園のようす



月日は百代の過客にして

—文化課細腕奮闘記—

「行き交う年も又旅人也」、とはよく言ったもので、この1年間は、あっという間に私の前を過ぎ去っていきました。

八戸市役所で、そして文化課で働くようになってはや1年が経ちました。二十数年生きてきた中で、これほど月日の流れを速く感じたことは無いかもしれません。文化課の中には3つのグループが存在し、私は「縄文の里整備推進室」という、長い名前の割にはどんな仕事をやっているのかがなかなか伝わりづらいグループに所属しています。一言で説明すると、是川遺跡を盛り上げてゆこうというものですが、その内容は非常に多岐にわたっています。

文化課名物(?)のかもしか捕獲隊にも入隊し幸運にも初出動で遭遇し、住宅街を「こっちだ〜!」と叫びながら走り回るといった貴重な経験もできました(付近住民のみなさん、お騒がせしました)。

「公務員は、いついかなる時も公務員でなければならない」私が公務員になる時に思ったことです。たとえ勤務時間外であっても公務を全うする一員として行動する、この初心を忘れずにこれからも頑張っていきたいと思います。

(佐々木 伸也)



三社大祭で山車をひく(最前列右)

平成 17 年度 八戸市内発掘調査

	遺跡名	調査	調査の理由	調査期間	調査面積	主な時代	
補助事業	酒美平遺跡①	試掘	個人住宅建築	H17 4 月 12 日～4 月 20 日	6 m ²	古代	
	酒美平遺跡②	試掘	個人住宅建築	H17 4 月 12 日～4 月 20 日	6 m ²	古代	
	松館遺跡	試掘	個人住宅建築	H17 4 月 12 日～4 月 20 日	50 m ²	縄文・弥生・古代・近世	
	館平遺跡①	試掘	個人住宅建築	H17 4 月 12 日～4 月 20 日	50 m ²	縄文・古代・中近世	
	石橋遺跡①	試掘	個人住宅建築	H17 4 月 13 日～4 月 20 日	20 m ²	古代	
	新井田古館遺跡	試掘・本調査	個人住宅建築	H17 4 月 13 日～4 月 28 日	200 m ²	中世	
	市子林遺跡①	試掘	店舗建築	H17 4 月 15 日～4 月 17 日	42 m ²	古代	
	是川一王寺 (1) 遺跡①	試掘	配水管理設	H17 4 月 26 日	43 m ²	近世	
	櫛引遺跡①	試掘	アンテナ鉄塔建設	H17 4 月 26 日	30 m ²	縄文・古代	
	八幡遺跡	試掘	屋内運動場建設	H17 5 月 10 日～5 月 13 日	120 m ²	縄文・古代・中世	
	市子林遺跡②	本調査	長芋作付	H17 5 月 16 日～7 月 29 日	4,000 m ²	古代	
	田面木遺跡①	試掘	個人住宅建築	H17 7 月 20 日	22 m ²	縄文・弥生・古代	
	休場遺跡	試掘	アンテナ鉄塔建設	H17 7 月 26 日～7 月 29 日	48 m ²	縄文・古代	
	林ノ前遺跡	本調査	植林・土取り	H17 8 月 5 日～11 月 17 日	500 m ²	古代	
	田面木遺跡②	試掘	個人住宅建築	H17 9 月 14 日	10 m ²	縄文・弥生・古代	
	高館遺跡	試掘	個人住宅建築	H17 9 月 21 日	10 m ²	縄文・古代	
	発掘	沢里山遺跡①	試掘	個人住宅建築	H17 10 月 6 日	36 m ²	縄文・古代
	調査	山内遺跡	試掘	個人住宅建築	H17 10 月 6 日	12 m ²	縄文
	事業	沢里山遺跡②	試掘	個人住宅建築	H17 10 月 7 日	10 m ²	縄文・古代
		是川一王寺 (1) 遺跡②	本調査	博物館建設	H17 10 月 11 日～10 月 28 日	1,200 m ²	縄文・中近世
		牛ヶ沢 (4) 遺跡	試掘	個人住宅建築	H17 10 月 27 日	15 m ²	縄文・弥生・古代
		石橋遺跡②	試掘	個人住宅建築	H17 10 月 31 日	36 m ²	古代
		是川一王寺 (1) 遺跡隣接地	確認調査	範囲確認調査	H17 11 月 1 日～11 月 30 日	180 m ²	縄文
	石橋遺跡③	試掘	集合住宅建設	H17 11 月 2 日	340 m ²	古代	
	沢ノ上遺跡	試掘	個人住宅建築	H17 12 月 14 日	30 m ²	弥生・古代	
	櫛引遺跡②	試掘	個人住宅建築	H18 3 月 20 日	50 m ²	縄文・古代・近世	
	法領屋敷遺跡	試掘	個人住宅建築	H18 3 月 20 日	30 m ²	縄文	
	中道遺跡	試掘	個人住宅建築	H18 3 月 22 日	50 m ²	縄文	
	館平遺跡②	試掘	個人住宅建築	H18 3 月 24 日	50 m ²	縄文・古代・中近世	
受託事業	田向遺跡	本調査	土地区画整理	H17 5 月 9 日～6 月 30 日	5,760 m ²	古代	
	田向冷水遺跡	本調査	土地区画整理	H17 5 月 9 日～11 月 15 日	20,600 m ²	旧石器・古代	
	市子林遺跡③	本調査	道路建設	H17 10 月 3 日～10 月 28 日	500 m ²	縄文・近世	
南郷区	荒谷遺跡	本調査	道路建設	H17 7 月 1 日～12 月 20 日	2,000 m ²	縄文・弥生・古代	

《調査組織》

八戸市教育委員会

教育長 菊池 武

教育部長 石橋 雄

教育部次長 沼畑 龍男

文化課

課長 工藤 竹久

課長補佐兼文化振興班長 石塚 勝栄

《埋蔵文化財班》

副班長兼埋蔵文化財班長 佐々木 浩一

主 幹 村木 淳

主任主査兼学芸員 小保内 裕之

主査兼学芸員 渡 則子

主事兼学芸員 小久保 拓也

主事兼学芸員 杉山 陽亮

主事兼学芸員 船場 昌子

嘱託員 福士 明日香

《文化振興班》

主 査 佐藤 顕一

主 査 村上 司

主 査 高森 大輔

主 事 石丸 昌代

《縄文の里整備推進室》

室 長 竹洞 一則

主 幹 宇部 則保

主任主査兼学芸員 大野 亨

主任主査 久保 伝

主 事 佐々木 伸也



《平成 17 年度刊行》

八戸市埋蔵文化財調査報告書

第 109 集 八戸市内遺跡 22

第 110 集 是川一王寺 (1) 遺跡

- 第 8 次 A 地点発掘調査報告書 -

第 111 集 八戸市内遺跡 23 是川中居遺跡 5

第 112 集 市子林遺跡第 9 次 A 地点

- 県道差波新井田線道路改良工事に伴う発掘調査報告書

第 113 集 田向冷水遺跡 II

掘りday はちのへ 第 9 号

発行年月日 2006 年 3 月 31 日

編集・発行 八戸市教育委員会文化課

〒 031 - 8686 青森県八戸市内丸一丁目 1 番 1 号

TEL 0178 (43) 2111 (内線 458)

E-mail: bunka@city.hachinohe.aomori.jp

http://www.city.hachinohe.aomori.jp/shiryo/iseki/index.htm

(八戸市ホームページ)